

# 地域共生ワークショップの実施結果について (速報版)



R6.9.20  
第2回和泉市こどもまんなか連絡会議

# 1. 地域共生ワークショップ実施状況一覧

No.	区分	校区名	実施日 (1・2回目)	場所	テーマ/参加者	重点項目
1	協議の場 (第1圏域)	鶴山台北	8月4日(日) —	鶴山台北 老人集会所	<p>【テーマ】 校区の「協議の場」において、こどもにかかる課題(居場所、地域とのつながり等)を抽出し、課題解決に向けた取り組みについて検討を行う。</p> <p>【参加者】 従前からの「協議の場」の参加者に加えて、小学校やこども食堂などこどもに関わる地域の関係者</p> <p>【テーマ・参加者】 こども食堂など地域活動を実践している関係者から現状把握と課題整理について検討を行う。</p>	<p>3-1.こどもの居場所づくり</p> <p>3-2.民間・地域・行政の協働</p>
2	協議の場 (第2圏域)	黒鳥町	7月31日(水) 未定	黒鳥 老人集会所		
3	協議の場 (第3圏域)	緑ヶ丘	8月31日(土) →台風により延期	緑ヶ丘会館		
4	協議の場 (第3圏域)	いぶき野	9月14日(土) 未定	いぶき野 老人集会所		
5	協議の場 (第4圏域)	青葉はつが野	7月7日(日) 9月21日(土)	青葉会館		
6	関係者 運営者	こども居場所交流会	6月27日(木)	本庁 別館3-1		

【圏域区分】第1圏域：北部、第2圏域：北西部、第3圏域：中部、第4圏域：南部

## 2-1. 地域の課題についての意見まとめ（協議の場）

### 重点項目3 地域みんなのこども(3-1こどもの居場所づくり、3-2民間・地域・行政の協働) に反映する

地域や行政が協働し、子どもたちの視点に立った居場所づくりの方向性を取りまとめる。

#### 地域の課題についての意見

##### 【こどもの意見を知る】

- ・こどもの得意なことや、みんなで楽しめる機会を持つことが大事だと思う。そのためには子どもたちが何を求めているのか、どのようなニーズがあるのか。
- ・子ども自身が何を望んでいるかを把握できず、世代間交流が長く続かない。
- ・長期休暇中の生活について、子ども自身がどう感じているか。

##### 【多様な交流】

- ・地元の高齢者等が自然の遊び場等の地域のことを知っているが、次世代や子ども世代に伝えられる機会が少ない。
- ・保護者同士の横のつながりが少ないので、子育ての悩み等の共有がしづらい。
- ・校区内の行事(地域・学校問わず)に、子どもや地域が積極的に参加できないか。また、子どもと大人が一緒になってイベント企画や運営をできないか。
- ・移動販売など、夏休みの期間中だけでも駄菓子やお菓子を買えるようにして、そこで世代間の交流はできないか。

##### 【人材・担い手】

- ・保護者が忙しいこともあり、横のつながりを作るための担い手が不足している。
- ・通学路で見守りをする人が減少している。

##### 【こどもの居場所】

- ・こどもの居場所をつくるにあたって、まずは場所や人員が問題となる。
- ・小さな公園は複数あるが、子どもが走り回れて自由に遊べる場所が少ない。
- ・習い事教室はあるが、昔こどもの居場所であった駄菓子屋が減ってきている。
- ・町会館を開放して、学習支援などに有効活用できないか。
- ・保護者の出勤時間が早いこともあり、朝子どもだけになる時間ができ、一人で登校している子がいるので、登校前の居場所が必要である。
- ・校内支援センターをスタートのためボランティアも募れば、協力あるのでは。

##### 【相談支援体制】

- ・インフォーマルも含めた子育てに関する地域の情報にアクセスしにくい。

#### 計画への意見反映ポイント

- ① 子ども・若者の意見を聴き、子ども・若者の視点に立った上で、こどもが「居たい」「行きたい」「やってみたい」と思えるような居場所をつくっていくことが必要である。
- ② 地元の高齢者等から多種多様な体験や遊びを学ぶことは、こどもの成長の上で大切である。また、関わる大人が子どもにとって自分の話をよく聞いてくれ、受け入れてくれる、ロールモデルになるなど、友人だけでなく地域の大人との関係性も重要である。
- ③ 既存のイベントに子どもと大人が積極的に参加したり、新たなイベントを子どもが大人と企画・運営するなど、希薄となった多世代との交流や、地域とのつながりが求められる。また、地域によってボランティアを希望している人はいるが、どのように関わったらよいかわからない人が一定数いるため、地域の人がこれらイベント等に関われる取組が求められる。
- ④ 子ども食堂の有無など地域によって地域資源は様々であるため、それぞれの地域に合った居場所づくりを進めていく必要がある。また、多くの子どもにとって学校が居場所になっていることを踏まえ、地域や学校との連携を通じてこどもの居場所をつくっていくことが求められる。
- ⑤ 自分の地域でどういう支援が受けられるのか、どこに相談したらよいかなど、それら疑問に対して、行政がホームページ等にアクセスしやすくする工夫や配慮が求められる。

## 2-2. 地域の課題についての意見まとめ（こどもの居場所づくり交流会）

重点項目3 地域みんなのこども(3-1こどもの居場所づくり)、重点項目5 ライフステージにおける支援(5-2学童～思春期) に反映する。

こどもの居場所づくりについての課題を整理し、居場所づくりについての市と民間の協働の方向性を取りまとめる。

### こどもの支援者の意見

#### 【こども】

- ・参加者は小学生中心で誘い合ってくる。
- ・場所によって、中学生、外国の子が来るこども食堂もある
- ・元気でアピールできる子が多い
- ・あいさつ、ありがとうが言えるようになった子もいる
- ・相談事をしてくれるようになった子どももいる
- ・晩御飯として食べに来たり、何度も並ぶ子が気になる

#### 【保護者】

- ・母親が幼児と訪れ交流の場になっている
- ・野菜の寄付は母が大変喜ぶ

#### 【運営】

- ・お手伝いしてくれるようになっていたが、人数が増えできなくなった
- ・おいしかったと感想を言ってくれる、楽しみにしてくれている
- ・忙しくて保護者とゆっくり話す時間が取れないこども食堂もある
- ・月1回実施、これ以上増やせない
- ・家庭に問題のある子に目を向けたい
- ・課題に対して市が何ができるのかを示してほしい

#### 【今後取り組みたいこと】

- ・学生からの学習支援
- ・農家と協働子育て・収穫・食べる、草抜き
- ・町会の夏祭り、福祉施設、企業など
- ・ほかのこども食堂の見学・活動の共有

### 計画への意見反映ポイント

- ① 家庭や学校以外のおとなやこどもとの出会いを重ねることは、こどもの社会性を育み、成長にとって良い経験となる。
- ② オープンなこども食堂にすすんで通うこどもは、いわゆる元気で活発なこどもが多い傾向がある。家庭やこども自身に課題があるこどもが通うためには、支援者側からのアプローチが必要である。
- ③ こども食堂の運営者は、定期的な食の確保ということより、食を通じてこどもや保護者とふれあう中でやりがいを実感している。さらに、こどもの成長や保護者の子育て支援に取り組む意義を感じているが、人数や場所など運営上の課題に対する整理が必要である。
- ④ こども食堂の運営者は、学習支援や食育などの取組み、地域活動への関心があり、こどもへの支援をより深めるためにも地域のインフォーマルな支援としての定着へ向けた行政との協働が必要である。